

EkeCite - エクサイト - 鉄骨汎用CAD

鉄骨アプリマニユアル

Ver. 3.52

鉄骨アプリ / 目次

第1章 コマンドリファレンス

[キープラ] キープラ	3
[断面] 部材断面	6
[側面] 部材側面	8
[ホルト] ホルト配置	13
[プレス] コーナ型線	15
[プレス] 中央亀甲型線	17
[継手] 継手配置	19
[継手] 継手基準図	21

第2章 メッセージ一覧

キープラ	27
断面	27
側面	27
ホルト	27
プレス	27
継手	27

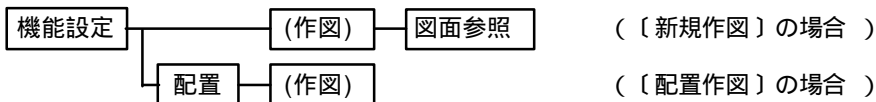


第1章 コマンドリファレンス

キープラン

キープラン

キープランを作図します。
 平面図と立面図を作図することができます。
 新規作図と配置作図ができます。



機能設定

[機能設定]ダイアログが開きます。このダイアログには、[軸データ]ページと[作図設定]ページがあります。[軸データ]ページでは、キープランの軸名と間隔のデータ等を設定します。[作図設定]ページでは、キープランの軸や寸法線の作図に関するデータを設定します。ダイアログの内容と操作は次の通りです。

[軸データ]ページ

キープランの軸名と間隔のデータ等を設定します。

軸名と間隔

キープランのX軸とY軸の軸名と間隔のデータを設定します。また、設定したデータをファイルに保存し、読み込むことができます。

表内のカーソル移動は、矢印キー、[Page Up],[Page Down],[Enter]キーまたはマウスのクリックで行います。また、表の右側のスクロールバーで表をスクロールすることができます。

なお、No.2以降で間隔が0(ゼロ)ならば、それ以降のデータは無視されます。

X軸 : X軸名 …… X軸の軸名称を入力します。

X間隔 …… X軸の軸間隔を入力します。

Y軸 : Y軸名 …… Y軸の軸名称を入力します。

Y間隔 …… Y軸の軸間隔を入力します。

[データクリア] …… 軸名と間隔のデータをクリアして初期化します。

[データ読み込] …… 軸名と間隔のデータをファイルから読み込みます。[データ読み込]ダイアログが開きますので、読み込むキープランデータのファイルを指定します。

[データ保存] …… 軸名と間隔のデータをファイルに保存します。[データ保存]ダイアログが開きますので、保存するキープランデータのファイルを指定します。

図面の種類と作図スケール

キープランの図面の種類と作図スケールを設定します。

平面図 …… 平面図を作図します。Y軸の軸マークが円形()になります。

立面図 …… 立面図を作図します。Y軸の軸マークが逆三角形()になります。

作図スケール :

キープランを作図するスケールを指定します。スケールは、 / : 空白 のいずれかで区切って入力します。また、ドロップダウンリストにスケールの一覧を表示させて、その中から選択することもできます。

軸間隔は、基本スケールと作図スケールの比で作図されます。それ以外は、作図スケールで作図されます。

なお、コマンド開始時には基本スケールが表示されます。

プレビュー

現在の設定内容に基づいて作図されるキープランのプレビューが表示されます。

ただし、軸名と間隔は実際に入力されたデータではなく、固定のデータで作図されます。

[作図設定]ページ

キープランの軸や寸法線の作図に関するデータを設定します。

軸設定

キープランの軸の作図に関するデータを設定します。

軸延長 :

キープランの軸線を延長する長さを入力します。

軸マーク直径 :

キープランの軸マーク(円形)の直径を入力します。

軸名称のフォント :

軸名称のフォントが表示されます。フォントを変更するには、[...]をクリックするか、表示されているフォントをダブルクリックします。

なお、フォントのサイズは軸名称の長さに応じて縮小されます。

寸法線

キープランの寸法線の作図に関するデータを設定します。

寸法線の形状 :

寸法線の形状が表示されます。形状を変更するには、[...]をクリックするか、表示されている形状をダブルクリックします。

寸法値のフォント :

寸法値のフォントが表示されます。フォントを変更するには、[...]をクリックするか、表示されているフォントをダブルクリックします。

寸法線との間隔 :

寸法線と寸法値との間隔を入力します。

寸法値のスタイル :

3桁の区切りを付ける

寸法値の数値に3桁ごとの区切りを付けるか否かを指定します。チェックすると区切りを付けます。

寸法線の間隔

キープランの各寸法線の間隔を設定します。

寸法足線 : キープランの軸線の端から寸法足線の開始位置までの間隔を入力します。

鉄骨アプリ

内側寸法線 : 寸法足線の開始位置から内側の寸法線までの間隔を入力します。

外側寸法線 : 内側の寸法線から外側の寸法線までの間隔を入力します。

軸マーク中心 : 外側の寸法線から軸マークの中心までの間隔を入力します。

線属性

キープランを作図するときの各線の線属性を設定します。線属性を変更するには、[...]をクリックするか、表示されている線属性をダブルクリックします。

キープラン : キープランの軸線の線属性が表示されます。

軸マーク : 軸マークの線属性が表示されます。

軸名称 : 軸名称の線属性が表示されます。

寸法線 : 寸法線の線属性が表示されます。

寸法値 : 寸法値の線属性が表示されます。

〔新規作図〕…… 編集中の図面を初期化してキープランを作図します。[確認]のメッセージボックスが表示されます。〔OK〕で作図します。シーケンスは[(作図)]-[図面参照]になります。

〔配置作図〕…… 編集中の図面にキープランを配置します。シーケンスは[配置]-[(作図)]になります。

〔キャンセル〕…… コマンドを終了します。

配置

キープランを配置します。右クリックするまで続けて配置できます。

(作図)

キープランを作図します。操作はありません。

図面参照

図面を参照します。左/右クリックまたは[ESC]キーで[機能設定]に戻ります。

部材断面

断面

型鋼の断面を作図します。

作図できる型鋼は、H型鋼、コラム、アングル、I型鋼、溝型鋼、リップ溝型鋼、軽量溝型鋼の7種類です。

断面の図と部材寸法の文字を作図することができます。

作図した図形の配置操作は[複合 \wedge -スト]と同じです。

機能設定

 \wedge -スト設定

...

機能設定

[機能設定]ダイアログが開きますので、断面の作図に必要なデータを設定します。ダイアログの内容と操作は次の通りです。

部材

作図する部材のデータを設定します。

鋼材の種類 :

鋼材の種類を指定します。ドロップダウンリストに種類の一覧を表示させて、その中から選択します。

部材寸法 :

選択した鋼材の部材寸法を入力します。寸法の入力は、先頭に「H」等の鋼材の種類を示す文字を入力できます。寸法は、空白、x X * / のいずれかで区切って入力します。

鋼材マスタを参照するには、[=]または[+]キーを押すか、[...]をクリックするか、この欄をダブルクリックします。[鋼材マスタの参照]ダイアログを参照してください。

r :

r1 :

r2 :

選択した鋼材のr, r1, r2の寸法を入力します。コラムの場合には、3t(板厚の3倍)の値が表示されます。鋼材マスタを参照した場合には、マスタのデータが表示されます。

寸法表記文字 :

[文字作図]で作図する文字を入力します。[部材寸法:]に入力された寸法が整形されて表示されます。

文字のフォント :

[文字作図]で作図する文字のフォントが表示されます。フォントを変更するには、[...]をクリックするか、表示されているフォントをダブルクリックします。

入力参考図 :

選択した鋼材の形状が表示されます。

作図オプション

断面を作図するときに、同時にベースを作図することができます。そのベースの作図に関するデータを設定します。

 \wedge -ストを作図する

ベースを作図するか否かを指定します。チェックするとベースを作図します。

寸法X : ベースのX方向の寸法を入力します。

寸法Y : ベースのY方向の寸法を入力します。

鉄骨アプリ

ずれX : ベースのX方向のずれを入力します。

ずれY : ベースのY方向のずれを入力します。

〔断面作図〕…… 鋼材の断面を作図します。カレント線属性で作図されます。

〔文字作図〕…… [寸法表記文字:]に入力された文字を作図します。カレント文字属性で作図されま
す。

〔キャンセル〕…… コマンドを終了します。

°-スト設定 これ以降の操作は[複合°-スト]を参照してください。

[鋼材マスタの参照]ダイアログ

鋼材のデータを鋼材マスタから選択します。ダイアログは上から、マスタの場所、検索寸法、部材寸法一覧、〔OK〕/〔キャンセル〕ボタンで構成されています。

マスタの場所 選択する鋼材マスタのある場所(フォルダ)が表示されます。場所を変更するには、[...]をクリックするか、表示されている場所をダブルクリックします。

検索寸法 検索する鋼材の部材寸法を入力します。寸法は、空白 , x X * / のいずれかで区切って入力します。寸法はすべてを入力する必要はありません。寸法を入力後、[Enter],[=]または[+]キーを押すと、入力された寸法に最も近い寸法の鋼材マスタが検索され、表示されます。また、[部材寸法一覧]にもそれが選択状態色で表示されます。

部材寸法一覧 鋼材マスタの部材寸法の一覧が表示されます。この一覧をクリックすることで選択状態色にすることができます。また、[検索寸法]にもそれが表示されます。一覧内の選択の移動は、矢印キーまたは[Page Up],[Page Down]キーで行います。また、一覧の右側のスクロールバーで一覧をスクロールすることができます。ダブルクリックすると〔OK〕と同じになります。

〔OK〕 [部材寸法一覧]で選択状態色にある鋼材([検索寸法]にも表示されている)を選択します。

〔キャンセル〕 選択処理をキャンセルします。

部材側面

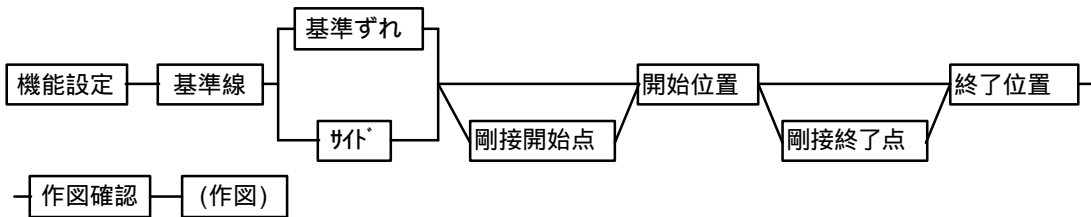
側面

型鋼の側面を作図します。

作図できる型鋼は、H型鋼、コラム、アングル、I型鋼、溝型鋼、リップ溝型鋼、軽量溝型鋼の7種類です。

直線と円弧の側面を作図することができます。

部材名を作図することができます。



[機能設定]の設定内容によって、シーケンスが変わります。

機能設定

[機能設定]ダイアログが開きます。このダイアログには、[基本設定]ページと[補助設定]ページがあります。[基本設定]ページでは、作図する側面の基本データを設定します。[補助設定]ページでは、作図する側面の補助データを設定します。ダイアログの内容と操作は次の通りです。

[基本設定]ページ

作図する側面の基本データを設定します。

側面の形状

側面の種類、部材寸法、作図基準を設定します。

側面の種類：

側面の種類(鋼材の種類と作図視点方向)を指定します。ドロップダウンリストに種類の一覧を表示させて、その中から選択します。

部材寸法：

選択した側面の鋼材の部材寸法を入力します。寸法の入力は、先頭に「H」等の鋼材の種類を示す文字を入力できます。寸法は、空白、x X * / のいずれかで区切って入力します。

鋼材マスタを参照するには、[=]または[+]キーを押すか、[...]をクリックするか、この欄をダブルクリックします。[部材断面]の[鋼材マスタの参照]ダイアログを参照してください。

この欄にフォーカスがあるときは、右側に寸法表記のパネルが表示されます。

作図基準：

側面を作図するときの基準を指定します。ドロップダウンリストに基準の一覧を表示させて、その中から選択します。

部材の中央 …… 中央を基準に作図します。シーケンスは[基準ずれ]になります。

部材の端部 …… 端部を基準に作図します。シーケンスは[サイド]になります。

作図する線

作図する線の基本設定をします。

フランジ/ウェブ厚の線を作図する

フランジ/ウェブの板厚の線を作図するか否かを指定します。チェックすると板厚の線を作図します。

鉄骨アプリ

なお、[部材寸法:]の入力で板厚の寸法を0(ゼロ)とすれば、ここがチェックされていても板厚の線は作図されません。

プレビュー

現在の設定内容に基づいて作図される側面のプレビューが表示されます。

直線側面 …… [基準線]が線分の場合の側面を表示します。

円弧側面 …… [基準線]が円(弧)の場合の側面を表示します。

ピン接合

ピン接合の基本設定をします。

ピン接合にする

ピン接合にするか否かを指定します。チェックするとピン接合になります。

開始側の端部クリア : [開始位置]からのクリアを入力します。

終了側の端部クリア : [終了位置]からのクリアを入力します。

剛接合

剛接合の基本設定をします。

剛接合にする

剛接合にするか否かを指定します。チェックすると剛接合になります。

なお、剛接位置を0(ゼロ)とすれば、ここがチェックされていても剛接合にはなりません。

開始側の剛接位置 : [剛接開始点]からの長さを入力します。シーケンスに[剛接開始点]があります。

開始側の剛接クリア : [開始側の剛接位置:]からのクリアを入力します。

終了側の剛接位置 : [剛接終了点]からの長さを入力します。シーケンスに[剛接終了点]があります。

終了側の剛接クリア : [終了側の剛接位置:]からのクリアを入力します。

部材名

部材名の基本設定をします。

部材名を作図する

部材名を作図するか否かを指定します。チェックすると部材名を作図します。

作図スケール :

部材名の作図スケールを指定します。スケールは、/ : 空白 のいずれかで区切って入力します。また、ドロップダウンリストにスケールの一覧を表示させて、その中から選択することもできます。

なお、コマンド開始時には基本スケールが表示されます。

部材名 :

作図する部材名を入力します。ドロップダウンリストには、今までに入力した部材名の一覧が最大10個まで表示されます。

[補助設定]ページ

作図する側面の補助データを設定します。

端部の形状

端部の形状を設定します。ドロップダウンリストに形状の一覧を表示させて、その中から選択します。

開始側の端部 : 開始側の端部の形状を指定します。

側面方向に垂直 …… 側面方向に対して垂直に作図します。

開始位置の線に平行 …… [開始位置]で指定した線分に平行に作図します。

鉄骨アプリ

終了側の端部 : 終了側の端部の形状を指定します。

側面方向に垂直 …… 側面方向に対して垂直に作図します。

終了位置の線に平行 …… [終了位置]で指定した線分に平行に作図します。

ピン接合

ピン接合の補助設定をします。ドロップダウンリストに設定の一覧を表示させて、その中から選択します。

円弧側面のクリア : [基準線]が円(弧)の場合の端部クリアの指定方法を設定します。

直線距離で指定 …… 端部クリアを直線距離で指定します。

円弧長で指定 …… 端部クリアを円弧長で指定します。

剛接合

剛接合の補助設定をします。ドロップダウンリストに設定の一覧を表示させて、その中から選択します。

直線側面の位置 : [基準線]が線分の場合の剛接位置の指定方法を設定します。

側面方向で指定 …… 剛接位置を側面方向で指定します。

水平方向で指定 …… 剛接位置を水平方向で指定します。

円弧側面の位置 : [基準線]が円(弧)の場合の剛接位置の指定方法を設定します。

直線距離で指定 …… 剛接位置を直線距離で指定します。

円弧長で指定 …… 剛接位置を円弧長で指定します。

円弧側面のクリア : [基準線]が円(弧)の場合の剛接クリアの指定方法を設定します。

直線距離で指定 …… 剛接クリアを直線距離で指定します。

円弧長で指定 …… 剛接クリアを円弧長で指定します。

部材名

部材名の補助設定をします。

部材名のフォント :

部材名のフォントが表示されます。フォントを変更するには、[...]をクリックするか、表示されているフォントをダブルクリックします。

図との間隔 :

側面の図と部材名との間隔を入力します。

作図する線

作図する線の補助設定をします。

実線 :

隠線 :

中心線 :

各線を作図するか否かと、作図するときの線属性を指定します。ドロップダウンリストに設定の一覧を表示させて、その中から選択します。線属性を指定する場合に、線属性を変更するには、[...]をクリックするか、表示されている線属性をダブルクリックします。

なお、部材名はカレント文字属性で作図されます。

作図しない …… 作図しません。

カレント線属性で作図 …… カレント線属性で作図します。カレント線属性が表示されます。

指定線属性で作図 …… 指定された線属性で作図します。指定された線属性が表示されます。

グループ化する

作図する側面をグループ化するか否かを指定します。チェックするとグループ化します。

プレビュー

[基本設定]ページの[プレビュー]と同じです。

[OK] …… 作図操作を開始します。

[キャンセル] …… コマンドを終了します。

基準線

側面の作図方向を決める基準線(線分/円(弧))をピックアップします。基準線が線分ならば直線の、円(弧)ならば円弧の側面を作図します。

基準ずれ

[作図基準:]が[部材の中央]のとき、[基準線]からのずれ量の[距離]を数値入力します。その後、[基準線]に対してずれる側にマウスカーソルをもっていきクリックします。

サイド

[作図基準:]が[部材の端部]のとき、[基準線]に対して側面を作図する側にマウスカーソルをもっていきクリックします。

剛接開始点

[開始側の剛接位置:]が設定されているとき、剛接の開始点を指示します。

開始位置

側面の開始位置を指示します。

[開始側の端部:]が[側面方向に垂直] …… 点/線分/円(弧)を指定します。

[開始側の端部:]が[開始位置の線に平行] …… 線分を指定します。

剛接終了点

[終了側の剛接位置:]が設定されているとき、剛接の終了点を指示します。

終了位置

側面の終了位置を指示します。終了位置をマウスで指示する方法と、側面長さを数値入力で指定する方法があります。数値入力で指定した場合、[終了側の端部:]は[側面方向に垂直]になります。

マウス [終了側の端部:]が[側面方向に垂直] …… 点/線分/円(弧)を指定します。

[終了側の端部:]が[終了位置の線に平行] …… 線分を指定します。

数値入力 - [基準線]が線分の場合

長さ …… 長さを側面方向で指定します。

/水平長さ …… 長さを水平方向で指定します。

*鉛直長さ …… 長さを鉛直方向で指定します。

数値入力 - [基準線]が円(弧)の場合

直線長さ …… 長さを直線距離で指定します。

/円弧長さ …… 長さを円弧長で指定します。

*角度(°) …… 長さを角度(°)で指定します。

作図確認

[作図確認]ダイアログが開きます。ダイアログの内容と操作は次の通りです。

フランジ/ウェブ厚の線の位置

フランジ/ウェブの板厚の線の作図位置を設定します。

このまま作図する …… ラバーバンドで表示されている位置のまま作図します。

反転して作図する …… ラバーバンドで表示されている位置の反対側に作図します。

[OK] …… 側面を作図します。

[キャンセル] …… [終了位置]に戻ります。

(作図) 側面を作図します。操作はありません。

ボルト配置

ボルト

ボルト列を作図します。

30°線を作図することができます。

作図するボルトの図形は、予めボルト図形マスタに登録しておきます。

機能設定 — 基準点 — 列方向 — (作図)

機能設定

[機能設定]ダイアログが開きますので、ボルト列の作図に必要なデータを設定します。ダイアログの内容と操作は次の通りです。

ボルト列パターン：

作図するボルト列のデータを設定します。

表内のカーソル移動は、矢印キー、[Enter]キーまたはマウスのクリックで行います。

選択 …… 作図するボルト列のデータを選択します。 をクリックして選択します。また、表内でカーソルのある行が選択されます。

径 …… ボルトの径を入力します。径はボルト図形マスタの図形名を指定します。

列 …… ボルトの列数を入力します。

間隔 …… 列の間隔を入力します。

数 …… ボルトの個数を入力します。

ピッチ …… ピッチを入力します。個数側の間隔です。

基準 …… 作図基準の位置を入力します(0～8)。作図基準の位置を示すパネルが表示されますので、そのパネルをクリックして作図基準の位置を指定することもできます。

位置X …… [基準点]からのX方向のずれを入力します。

位置Y …… [基準点]からのY方向のずれを入力します。

距離 …… [位置X/Y]から作図基準の位置までのずれの距離を入力します。

作図オプション

ボルト列の作図オプションを設定します。

30°線を作図する

端部のボルトからボルト列方向に対して30度の方向に線を作図することができます。この30°線を作図するか否かを指定します。チェックすると30°線を作図します。

作図基準の位置が0～2および6～8のときは片方の端部から、3～5のときは両方の端部から30°線を作図します。

30°線は参照線で作図されます。

プレビュー

現在の設定内容に基づいて作図されるボルト列のプレビューが表示されます。

[OK] …… 作図操作を開始します。

[キャンセル] …… コマンドを終了します。

基準点

ボルト列を作図する基準点を指示します。基準点から[位置X/Y]、さらに[距離]ずれた点が作図基準の位置になります。

列方向

ボルト列を作図する列方向を指示します。マウスで指示する方法と、数値入力で指定する方法があります。

マウス 列方向を示す線分をピックアップします。

数値入力 角度(°) …… 列方向を角度(°)で指定します。

X, Y …… 列方向を X, Yで指定します。

(作図)

ボルト列を作図します。操作はありません。

プレスのコーナー部の型線を作図します。
型紙記号として、工事名、板名、寸法を作図することができます。



機能設定

[機能設定]ダイアログが開きますので、コーナー型線の作図に必要なデータを設定します。ダイアログの内容と操作は次の通りです。

型線の形状：

作図するコーナー型線のデータを設定します。

表内のカーソル移動は、矢印キー、[Enter]キーまたはマウスのクリックで行います。

選択 …… 作図するコーナー型線のデータを選択します。 をクリックして選択します。また、表内でカーソルのある行が選択されます。

ボルト …… 端部ボルトからの距離を入力します。

面1 …… プレス面 1 からの距離を入力します。

面2 …… プレス面 2 からの距離を入力します。

スカラップ

スカラップの種類と長さを設定します。

種類：

スカラップの種類を指定します。ドロップダウンリストに種類の一覧を表示させて、その中から選択します。

(無) …… スカラップはありません。

内側 …… 内側円弧のスカラップになります。[長さ:]で円弧の半径を指定します。

カット …… 直線カットのスカラップになります。[長さ:]でカットの長さを指定します。

長さ：

スカラップの長さを入力します。

線属性

コーナー型線を作図するときの各線の線属性を設定します。線属性を変更するには、[...]をクリックするか、表示されている線属性をダブルクリックします。

型線： 型線の線属性が表示されます。

型紙記号： 型紙記号の線属性が表示されます。

型紙記号

型紙記号の作図に関するデータを設定します。

型紙記号を作図する

型紙記号を作図するか否かを指定します。チェックすると型紙記号として、工事名、板名、寸法を作図します。

作図スケール：

型紙記号の作図スケールを指定します。スケールは、/ : 空白 のいずれかで区切って入力します。また、ドロップダウンリストにスケールの一覧を表示させて、その中から選択すること

鉄骨アプリ

もできます。

なお、コマンド開始時には前回指定したスケールが表示されます。

工事名：

作図する工事名を入力します。ドロップダウンリストには、今までに入力した工事名の一覧が最大10個まで表示されます。

板名：

作図する板名を入力します。ドロップダウンリストには、今までに入力した板名の一覧が最大10個まで表示されます。

板厚：

作図する寸法の板厚を入力します。寸法の横と縦の長さは、作図される型線から求められます。その長さには、基本スケールとカレントスケールが加味されます。

記号のフォント：

型紙記号のフォントが表示されます。フォントを変更するには、[...]をクリックするか、表示されているフォントをダブルクリックします。

寸法値小数桁数：

作図する寸法的小数点以下の桁数を指定します。[0]～[3]の中から選択します。

プレビュー

現在の設定内容に基づいて作図されるコーナー型線のプレビューが表示されます。

[OK] …… 作図操作を開始します。

[キャンセル] …… コマンドを終了します。

ボルト

端部ボルトを指示します。

面1

プレス面1として線分を指示します。どちらの面でもかまいません。

面2

プレス面2として線分を指示します。もう一方の面を指示します。

軸1

型線の延長先の線分を指示します。ここでは[面1]から垂直に作図されますので、後の[調整/確認]で調整(絞り込み)します。

軸2

型線の延長先の線分を指示します。ここでは[面2]から垂直に作図されますので、後の[調整/確認]で調整(絞り込み)します。

調整/確認

各軸に下ろした型線の調整(絞り込み)と作図確認を行います。

調整 型線が[軸1]/[軸2]に到達する付近にマウスカーソルをもっていくとカーソルの形状が「×」になりますので、そこでクリックすると調整(絞り込み)を行うことができます。調整はマウスで指示する方法と数値入力で指定する方法があります。

マウス マウスカーソルから[軸1]/[軸2]に下ろした垂線の位置が型線の端点になります。マウスをクリックして指示します。

数値入力 軸交点からの距離 …… [軸1]と[軸2]の交点からの距離を入力します。なお、2つの軸の交点は「×」で示されています。

確認 任意の位置でマウスをクリックすると[作図確認]ダイアログが開きます。〔はい〕で作図します。

(作図) コーナー型線を作図します。操作はありません。

中央亀甲型線

プレス

プレスの中央亀甲部の型線を作図します。
型紙記号として、工事名、板名、寸法を作図することができます。

機能設定 — 左下 — 右上 — 左上 — 右下 — 確認 — (作図)

機能設定 [機能設定]ダイアログが開きますので、中央亀甲型線の作図に必要なデータを設定します。ダイアログの内容と操作は次の通りです。

型線の形状：

作図する中央亀甲型線のデータを設定します。

表内のカーソル移動は、矢印キー、[Enter]キーまたはマウスのクリックで行います。

位置 …… 作図する中央亀甲型線の位置を示します。

ボルト …… 端部ボルトからの距離を入力します。

面1 …… プレス面 1 からの距離を入力します。

面2 …… プレス面 2 からの距離を入力します。

プレビュー

現在の設定内容に基づいて作図される中央亀甲型線のプレビューが表示されます。

型紙記号

型紙記号の作図に関するデータを設定します。

型紙記号を作図する

型紙記号を作図するか否かを指定します。チェックすると型紙記号として、工事名、板名、寸法を作図します。

作図スケール：

型紙記号の作図スケールを指定します。スケールは、/ : 空白 のいずれかで区切って入力します。また、ドロップダウンリストにスケールの一覧を表示させて、その中から選択することもできます。

なお、コマンド開始時には前回指定したスケールが表示されます。

工事名：

作図する工事名を入力します。ドロップダウンリストには、今までに入力した工事名の一覧が最大10個まで表示されます。

板名：

作図する板名を入力します。ドロップダウンリストには、今までに入力した板名の一覧が最大

鉄骨アプリ

10個まで表示されます。

板厚：

作図する寸法の板厚を入力します。寸法の横と縦の長さは、作図される型線から求められます。型線の4つの各辺が水平になるように回転させて、横×縦の面積が最小になるときの長さを寸法とします。その長さには、基本スケールとカレントスケールが加味されます。

記号のフォント：

型紙記号のフォントが表示されます。フォントを変更するには、[...]をクリックするか、表示されているフォントをダブルクリックします。

寸法値小数桁数：

作図する寸法的小数点以下の桁数を指定します。[0]～[3]の中から選択します。

線属性

中央亀甲型線を作図するときの各線の線属性を設定します。線属性を変更するには、[...]をクリックするか、表示されている線属性をダブルクリックします。

型線： 型線の線属性が表示されます。

型紙記号： 型紙記号の線属性が表示されます。

[OK] …… 作図操作を開始します。

[キャンセル] …… コマンドを終了します。

左下

中央亀甲型線の左下部分を指示します。次の3つを指示します。

1.端部ボルト 端部ボルトを指示します。

2.プレス面1 プレス面1として線分を指示します。どちらの面でもかまいません。

3.プレス面2 プレス面2として線分を指示します。もう一方の面を指示します。

右上

中央亀甲型線の右上部分を指示します。[左下]と同様に行います。

左上

中央亀甲型線の左上部分を指示します。[左下]と同様に行います。

右下

中央亀甲型線の右下部分を指示します。[左下]と同様に行います。

確認

作図確認を行います。任意の位置でマウスをクリックすると[作図確認]ダイアログが開きます。〔はい〕で作図します。

(作図)

中央亀甲型線を作図します。操作はありません。

継手配置

継手

継手を作図します。
 フランジ面とウェブ面と別々に作図します。
 作図した図形の配置操作は[複合[°]-スト]と同じです。

機能設定 — [°]-スト設定 — ...

機能設定

[機能設定]ダイアログが開きますので、継手の作図に必要なデータを設定します。ダイアログの内容と操作は次の通りです。

継手データ

作図する継手のデータを設定します。

種類 :

梁/柱の種類を指定します。ドロップダウンリストに種類の一覧を表示させて、その中から選択します。継手マスタを参照した場合には、マスタのデータが表示されます。

寸法 :

梁/柱の部材寸法を入力します。寸法は、空白、x X * / のいずれかで区切って入力します。継手マスタを参照するには、[=]または[+]キーを押すか、[...]をクリックするか、この欄をダブルクリックします。[継手マスタの参照]ダイアログを参照してください。
 なお、この欄の下のパネルに、梁/柱の種類、部材寸法、ボルト径が整形されて表示されます。

ボルト径 :

ボルト径を入力します。また、ドロップダウンリストにボルト径の一覧を表示させて、その中から選択することもできます。ボルト径はボルト図形マスタの図形名を指定します。設定したボルト径が、[フランジ:]、[ウェブ:]の[ボルト径:]にも表示されます。継手マスタを参照した場合には、マスタのデータが表示されます。

プレート :

プレートを指定します。ドロップダウンリストにプレートの一覧を表示させて、その中から選択します。([スライスプレート]/[ガセットプレート])

フランジ :

ウェブ :

フランジとウェブのデータを設定します。フランジの[ボルト径:]、[ボルト材:]、[板厚表:]、[すきま:]、[端部:]、[ボルト間:]、[端部表:]、[ボルト間:]を設定すると、フランジ裏およびウェブの対応する欄にも表示されます。継手マスタを参照した場合には、マスタのデータが表示されます。

ボルト径 : ボルト径を入力します。また、ドロップダウンリストにボルト径の一覧を表示させて、その中から選択することもできます。ボルト径はボルト図形マスタの図形名を指定します。ボルト径が0(ゼロ)ならばボルトは作図されません。

ボルト材 : ボルト材を指定します。ドロップダウンリストにボルト材の一覧を表示させて、その中から選択します。

板厚表 : 板厚を入力します。0(ゼロ)ならばプレートは作図されません。(フランジ表)

板厚裏 : " . " " . (フランジ裏)

板厚 : " . " " . (ウェブ)

鉄骨アプリ

- すきま : 梁/柱間のすきまを入力します。
- 千鳥 : ボルトの千鳥配置を指定します。ドロップダウンリストに千鳥配置の一覧を表示させて、その中から選択します。
- ボルト数 : 横方向のボルト数を入力します。
- ボルト数 : 縦方向のボルト数を入力します。
- 端部 : 横方向の端部ボルトまでの距離を入力します。
- ボルト間 : 横方向のボルト間隔を入力します。
- 端部表 : 縦方向の端部ボルトまでの距離を入力します。(フランジ表)
- 端部裏 : " "。(フランジ裏)
- 端部 : " "。(ウェブ)
- ボルト間 : 縦方向のボルト間隔を入力します。
- ボルト間 : 上下のボルトの間隔を入力します。

共通作図条件

フランジ面およびウェブ面に共通の作図条件を設定します。

プレートを作図する

プレートを作図するか否かを指定します。チェックするとプレートを作図します。

ボルトを作図する

ボルトを作図するか否かを指定します。チェックするとボルトを作図します。

ウェブ面作図オプション

ウェブ面を作図するときのオプションを設定します。

フランジプレートを作図する

フランジのプレートを作図するか否かを指定します。チェックするとプレートを作図します。

フランジボルト芯を作図する

フランジのボルト芯を作図するか否かを指定します。チェックするとボルト芯を作図します。

ガセット作図オプション

[プレート:]が[ガセットプレート]のときの作図オプションを設定します。

小梁を作図する

小梁を作図するか否かを指定します。チェックすると小梁を作図します。

[フランジ面を作図]…… 継手のフランジ面を作図します。カレント線属性で作図されます。

[ウェブ面を作図]…… 継手のウェブ面を作図します。カレント線属性で作図されます。

[図形の確認]…… [図形の確認]ダイアログが開きます。現在の設定内容に基づいて作図される図形が表示されます。このダイアログは開いたままにしておくことができますが、設定内容を変更しても再度このボタンを操作するまでは、図形の見え方は変わりません。

[キャンセル]…… コマンドを終了します。

ヘルプ設定 これ以降の操作は[複合ヘルプ]を参照してください。

[継手マスタの参照]ダイアログ

継手のデータを継手マスタから選択します。ダイアログは上から、マスタの場所、検索種類、検索寸法、部材寸法一覧、[OK] / [キャンセル] ボタンで構成されています。

マスタの場所	選択する継手マスタのある場所(フォルダ)が表示されます。場所を変更するには、[...]をクリックするか、表示されている場所をダブルクリックします。
検索種類	検索する継手の梁/柱の種類を指定します。ドロップダウンリストに種類の一覧を表示させて、その中から選択します。
検索寸法	検索する継手の梁/柱の部材寸法を入力します。寸法は、空白、x X * / のいずれかで区切って入力します。寸法はすべてを入力する必要はありません。寸法を入力後、[Enter]、[=]または[+]キーを押すと、指定された種類の中から入力された寸法に最も近い寸法の継手マスタが検索され、表示されます。また、[部材寸法一覧]にもそれが選択状態色で表示されます。
部材寸法一覧	継手マスタの部材寸法の一覧が表示されます。この一覧をクリックすることで選択状態色にすることができます。また、[検索種類]、[検索寸法]にもそれが表示されます。一覧内の選択の移動は、矢印キーまたは[Page Up]、[Page Down]キーで行います。また、一覧の右側のスクロールバーで一覧をスクロールすることができます。ダブルクリックすると[OK]と同じになります。
[OK]	[部材寸法一覧]で選択状態色にある継手([検索種類]、[検索寸法]にも表示されている)を選択します。
[キャンセル]	選択処理をキャンセルします。

継手基準図

継手

継手基準図を作図します。

継手基準図は指定された枠図面を基にして作図されます。

作図した図形の配置操作は[複合ペースト]と同じです。

機能設定

ペースト設定

...

機能設定

[機能設定]ダイアログが開きます。このダイアログには、[継手データ]ページ、[記事データ]ページと[作図設定]ページがあります。[継手データ]ページでは、作図する継手基準図の継手データを設定します。[記事データ]ページでは、作図する継手基準図の記事データを設定します。[作図設定]ページでは、継手基準図の作図に関するデータを設定します。ダイアログの内容と操作は次の通りです。

[継手データ]ページ

作図する継手基準図の継手データを設定します。

継手データ

継手データを設定します。

種類：

鉄骨アプリ

梁/柱の種類を指定します。ドロップダウンリストに種類の一覧を表示させて、その中から選択します。継手マスタを参照した場合には、マスタのデータが表示されます。

寸法：

梁/柱の部材寸法を入力します。寸法は、空白、x X * / のいずれかで区切って入力します。

継手マスタを参照するには、[=]または[+]キーを押すか、[...]をクリックするか、この欄をダブルクリックします。[継手配置]の[継手マスタの参照]ダイアログを参照してください。

なお、この欄の下のパネルに、梁/柱の種類、部材寸法、ボルト径が整形されて表示されます。

ボルト径：

ボルト径を入力します。また、ドロップダウンリストにボルト径の一覧を表示させて、その中から選択することもできます。ボルト径はボルト図形マスタの図形名を指定します。設定したボルト径が、[フランジ:]、[ウェブ:]の[ボルト径:]にも表示されます。継手マスタを参照した場合には、マスタのデータが表示されます。

プレート：

プレートを指定します。ドロップダウンリストにプレートの一覧を表示させて、その中から選択します。([スライスプレート]/[ガセットプレート])

フランジ：

ウェブ：

フランジとウェブのデータを設定します。フランジの[ボルト径:]、[ボルト材:]、[板厚表:]、[すきま:]、[端部:]、[ボルト間:]、[端部表:]、[ボルト間:]を設定すると、フランジ裏およびウェブの対応する欄にも表示されます。継手マスタを参照した場合には、マスタのデータが表示されます。

ボルト径： ボルト径を入力します。また、ドロップダウンリストにボルト径の一覧を表示させて、その中から選択することもできます。ボルト径はボルト図形マスタの図形名を指定します。ボルト径が0(ゼロ)ならばボルトは作図されません。

ボルト材： ボルト材を指定します。ドロップダウンリストにボルト材の一覧を表示させて、その中から選択します。

板厚表： 板厚を入力します。0(ゼロ)ならばプレートは作図されません。(フランジ表)

板厚裏： " " " "。(フランジ裏)

板厚： " " " "。(ウェブ)

すきま： 梁/柱間のすきまを入力します。

千鳥： ボルトの千鳥配置を指定します。ドロップダウンリストに千鳥配置の一覧を表示させて、その中から選択します。

ボルト数： 横方向のボルト数を入力します。

ボルト数： 縦方向のボルト数を入力します。

端部： 横方向の端部ボルトまでの距離を入力します。

ボルト間： 横方向のボルト間隔を入力します。

端部表： 縦方向の端部ボルトまでの距離を入力します。(フランジ表)

端部裏： " "。(フランジ裏)

端部： " "。(ウェブ)

ボルト間： 縦方向のボルト間隔を入力します。

ボルト間： 上下のボルトの間隔を入力します。

[記事データ]ページ

作図する継手基準図の記事データを設定します。

記事データ

記事データを設定します。[継手データ]ページの[継手データ]を設定すると、ここにも表示されます。

記事データは、[作図設定]ページの[基準図の枠図面:]に表示される図面に作図されている、特定

鉄骨アプリ

の文字列と置換えられて作図されます。[継手基準図の枠図面]についてを参照してください。

- 継手 符号 : 継手の符号を入力します。ドロップダウンリストには、今までに入力した符号の一覧が最大10個まで表示されます。
- 寸法 : 継手の梁/柱の部材寸法を入力します。
- 材質 : 継手の材質を入力します。ドロップダウンリストには、今までに入力した材質の一覧が最大10個まで表示されます。
- 台数 : 継手の台数を入力します。
- フランジ表 枚数 : フランジ表のプレートの枚数を入力します。
寸法 : " 寸法を入力します。
- フランジ裏 枚数 : フランジ裏のプレートの枚数を入力します。
寸法 : " 寸法を入力します。
- フランジボルト材 : フランジのボルト材を指定します。ドロップダウンリストにボルト材の一覧を表示させて、その中から選択します。
寸法 : フランジのボルトの寸法を入力します。
- ウェブ枚数 : ウェブのプレートの枚数を入力します。
寸法 : " 寸法を入力します。
- ウェブボルト材 : ウェブのボルト材を指定します。ドロップダウンリストにボルト材の一覧を表示させて、その中から選択します。
寸法 : ウェブのボルトの寸法を入力します。
- 記事1 : 任意の記事文字列を入力します。ドロップダウンリストには、今までに入力した記事の一覧が最大10個まで表示されます。
- 記事2 : [記事1:]と同じです。

[作図設定]ページ

継手基準図の作図に関するデータを設定します。

基準図の枠図面と作図スケール

継手基準図の枠図面と作図スケールを設定します。

基準図の枠図面 :

継手基準図の基になる枠図面の場所と名称が表示されます。枠図面を変更するには、[...]をクリックするか、表示されている枠図面をダブルクリックします。

継手基準図はこの枠図面を基にして作図されます。[継手基準図の枠図面]についてを参照してください。

作図スケール :

継手基準図を作図するスケールを指定します。スケールは、/ : 空白 のいずれかで区切って入力します。また、ドロップダウンリストにスケールの一覧を表示させて、その中から選択することもできます。

継手の図は原寸で、記事データは枠図面に作図されている置換える前の文字列と同じ形状で、寸法線はこの作図スケールで作図されます。

なお、コマンド開始時には基本スケールが表示されます。

寸法線

継手基準図の寸法線の作図に関するデータを設定します。

寸法線の形状 :

寸法線の形状が表示されます。形状を変更するには、[...]をクリックするか、表示されている形状をダブルクリックします。

寸法値のフォント :

寸法値のフォントが表示されます。フォントを変更するには、[...]をクリックするか、表示され

ているフォントをダブルクリックします。

寸法線との間隔：

寸法線と寸法値との間隔を入力します。

寸法値の対称：

3桁の区切りを付ける

寸法値の数値に3桁ごとの区切りを付けるか否かを指定します。チェックすると区切りを付けます。

足線の位置：

寸法足線の開始位置を入力します。

足線の長さ：

寸法足線の長さを入力します。

線属性

継手基準図を作図するときの各線の線属性を設定します。線属性を変更するには、[...]をクリックするか、表示されている線属性をダブルクリックします。

なお、記事データは枠図面に作図されている置換える前の文字列と同じ文字属性で作図されます。

実線： 実線の線属性が表示されます。

隠線： 隠線の線属性が表示されます。

中心線： 中心線の線属性が表示されます。

寸法線： 寸法線の線属性が表示されます。

[基準図を作図]…… 継手基準図を作図します。

[図形の確認]…… [図形の確認]ダイアログが開きます。現在の設定内容に基づいて作図される図形が表示されます。このダイアログは開いたままにしておくことができますが、設定内容を変更しても再度このボタンを操作するまでは、図形の表示は変わりません。

[キャンセル]…… コマンドを終了します。

ペ-スト設定 これ以降の操作は[複合ペ-スト]を参照してください。

[継手基準図の枠図面]について

継手基準図は枠図面を基にして作図されます。枠図面には、継手の図を作図する範囲を示すマーキングと、記事データと置換えられる文字列を作図しておく必要があります。

作図する範囲 継手の図を作図する範囲は、2つのマーキングで示します。マーキングは、左上と右下の2つまたは左下と右上の2つのいずれか1組を作図しておきます。

置換え文字列 記事データと置換えられる文字列は、前後を半角の「¥」記号ではさんだ文字列で、記事データとの対応は次の通りです。作図する必要のない置換え文字列は作図しておく必要はありません。また、置換え文字列以外の文字列はそのまま作図されます。

記事データ	置換え文字列
継手 符号	¥JMARK¥
寸法	¥JSIZE¥
材質	¥JMATER¥

鉄骨アプリ

台数 ¥JC¥
 フラジ 表 枚数 ¥FPCF¥
 寸法 ¥FPSIZEF¥
 フラジ 裏 枚数 ¥FPCB¥
 寸法 ¥FPSIZEB¥
 フラジ ホルト材 ¥FBQU¥
 寸法 ¥FBSIZE¥
 ウェブ 枚数 ¥WPC¥
 寸法 ¥WPSIZE¥
 ウェブ ホルト材 ¥WBQU¥
 寸法 ¥WBSIZE¥
 記事1 ¥DESC1¥
 記事2 ¥DESC2¥

枠図面の例

枠図面の例を次に示します。枠図面は継手基準図の作図スケールと同じスケールで作図しておく方が良いでしょう。

¥JMARK¥	¥JSIZE¥	¥JMATER¥	¥JC¥ 台
FLG	¥FPCF¥ ¥FPSIZEF¥	¥FBQU¥ ¥FBSIZE¥	
	¥FPCB¥ ¥FPSIZEB¥		
WEB	¥WPC¥ ¥WPSIZE¥	¥WBQU¥ ¥WBSIZE¥	
¥DESC1¥			
¥DESC2¥			



第2章 メッセージ一覧

キープラン

無効なデータがあります。

断面

側面

ボルト

無効なデータがあります。

ボルト図形の読み込みができません。ボルト名 : [図形名]

プレス

無効なデータがあります。

継手

ボルト図形の読み込みができません。ボルト名 : [図形名]

基準図の作図範囲が不明です。枠図面：[図面ファイル名]